

別記様式第3号（第2項第6号関係）

令和 3年 1月 8日

学 長 殿

主 査 金山 紀久

学位論文審査及び最終試験の結果の要旨に  
ついて(報告)

令和2年 12月 11日付けで依頼されました下記の者の学位論文  
審査及び最終試験の結果の要旨を別紙1及び別紙2のとおり報告いたし  
ます。

記

専 攻 畜産科学専攻

氏 名 三宅 俊輔

(別紙 1)

学位論文審査の結果の要旨	
専攻	畜産科学専攻
氏名	三宅 俊輔
審査委員署名	主 査 金山 紀久 副 査 耕野 拓一 副 査 志賀 永一 副 査 仙北 啓彦
題目	経営資源の編成と飼養管理が大規模酪農経営の 経済性格差に与える影響
審査結果の要旨 (1,000 字程度)	
<p>本論文は、北海道酪農の主要な担い手である経産牛頭数 100 頭以上の大規模経営体を対象として、その経済的安定性の条件を経営資源の編成と飼養管理に着目して明らかにしたものである。</p> <p>酪農における大規模経営体は、産出物である生乳の価格が高位安定的であることに支えられている反面、大規模ゆえに投入物で高い割合の購入飼料の価格変動の影響を受け、経営収益の不安定性が拡大するという二面性を有している。これら経営体の多くは家族経営であり、労働力が限定される中でいかにして大規模経営を安定的に管理運営していくかが、現在、北海道酪農に課せられた喫緊の課題といえる。</p> <p>本論文の方法論上の特徴として、第一に、統計調査では明らかにすることが困難な経営体の定量的データを、多数の個別経営体に対する聞き取り調査をとおして得ている点である。第二は、土地・労働力・資本といった基本的経営要素の賦存と、その稼働状態である、資本設備構成、労働編成に注目した点である。第三に、実質的に牛減価償却に依存するという酪農所得の特殊性から、統計上の経済</p>	

余剰ではなく、キャッシュフロー視点の現金余剰に注目した点である。

分析の結果、明らかになった内容は以下の3点に集約することができる。

第一に、100頭以上の経営群といえども収益の安定性に大きな差が存在し、収益向上と安定性が両立していない経営が多く見られることである。2000年以降に飼料等資材価格が高止まりし、生乳生産の高コスト化と収益性格差拡大が同時に進展した。格差拡大の要因として経産牛の飼養管理をはじめとする経営管理水準と、自給飼料作地の土地利用の2点に注目することが重要であることを明らかにした。

第二に、収益性およびその安定性の格差の要因は、単に生産費の高低だけではなく、その背後に経産牛の疾病発生之差があり、これが個体販売に影響を与えているということである。分析では飼料品質を一定にするためにTMRセンター加入の有無や飼料基盤の大小で比較を行い、その結果、飼養管理の重要性が明らかとなった。

第三に、労働力が限定された家族経営において、規模拡大に伴って経営主は機械等のオペレーター作業の割合が高くなるが、飼養管理を徹底するためには労働編成が重要になる。分析の結果、単純作業の自動化を実現しつつ、経営主が経産牛飼養管理に投下できる時間をいかに確保するかが重要であることを明らかにした。これによって乳牛の疾病や発情の早期発見が可能となり、乳量や繁殖成績の改善につながっていることを明らかにした。

以上の知見は、北海道のみならずわが国酪農経営体と酪農産業の発展に資するものと判断され、審査委員全員一致で本論文が帯広畜産大学大学院畜産学研究科博士後期課程の学位論文として十分価値があると認めた。

#### 学位論文の基礎となる学術論文

題目 大規模酪農経営体における自給飼料の確保の経済的な効果とその条件  
ー北海道を事例としてー

著者 三宅俊輔, 仙北谷康, 金山紀久

学術雑誌 農業経営研究

(巻・号・頁) (印刷中)

発行年月 2021年1月に発行予定

(別紙2)

最終試験の結果の要旨	
専攻	畜産科学専攻
氏名	三宅 俊輔
審査委員署名	主査 金山 紀久 副査 新野 拓一 副査 志賀 永一 副査 仙北 谷 寿
実施年月日	令和 3 年 1 月 8 日
試験方法 (該当のものを○で 囲むこと)	口述・筆記
要 旨	
<p>主査および副査の4名は、学位申請者に対し、帯広畜産大学総合研究棟I号館N3304において学位申請者本人による学位論文内容の説明を行わせ、その内容について質疑応答を行った。また、関連する専門知識について口頭により試問を行った。</p> <p>その結果、学位申請者が帯広畜産大学大学院畜産学研究科博士後期課程の修了者としてふさわしい学力および見識を有すると判断し、博士（農学）の学位を授与するに値すると判断した。</p>	